

令和2年度三団体研修会アンケート結果

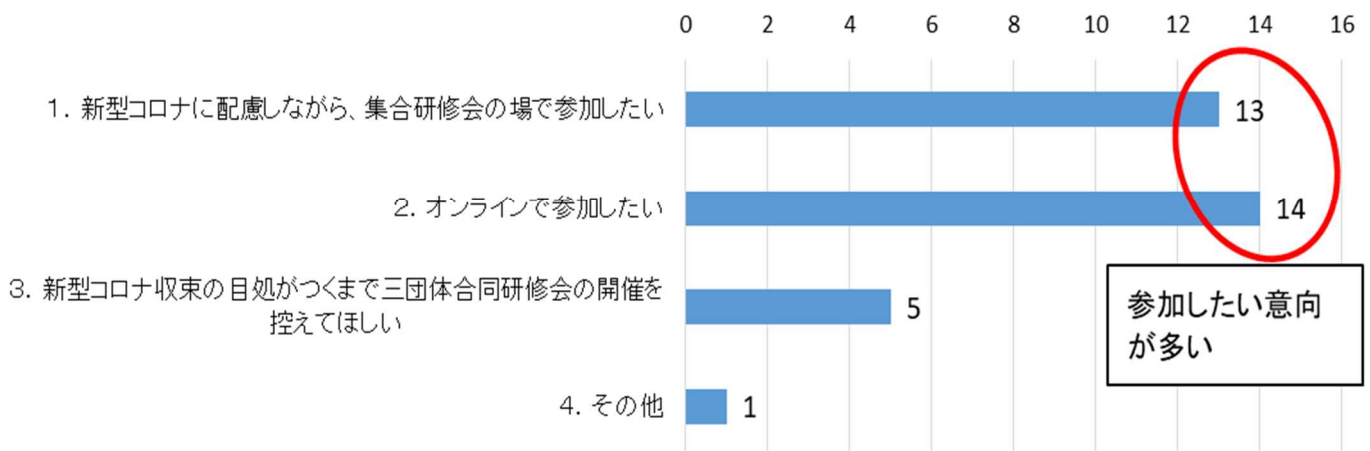
(富山県医療ソーシャルワーカー協会分)

Q1 あなたの所属団体に○をつけてください

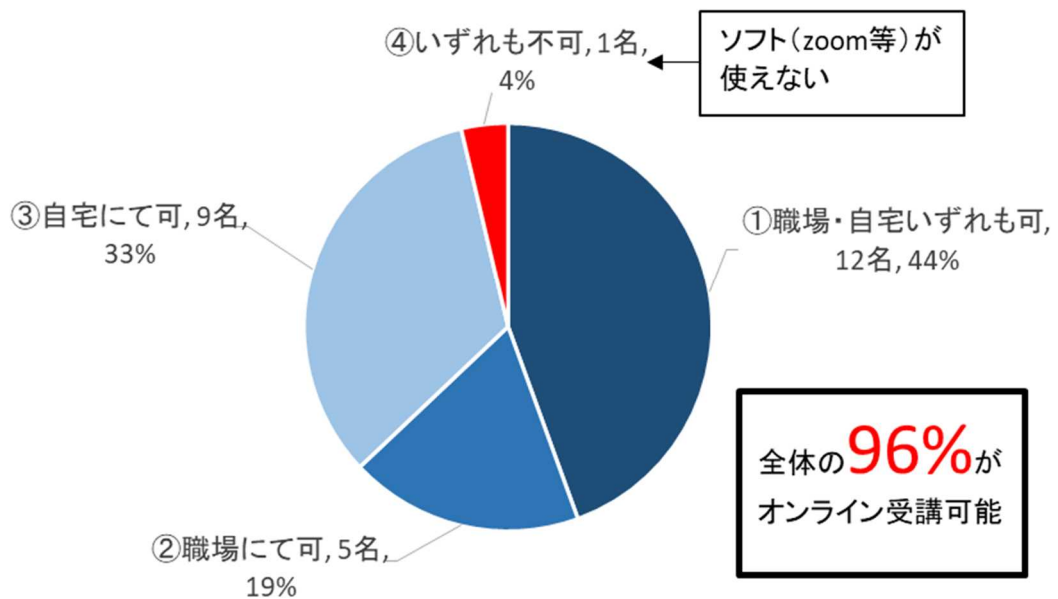
27名

協会員200名とすると、回収率は約14%

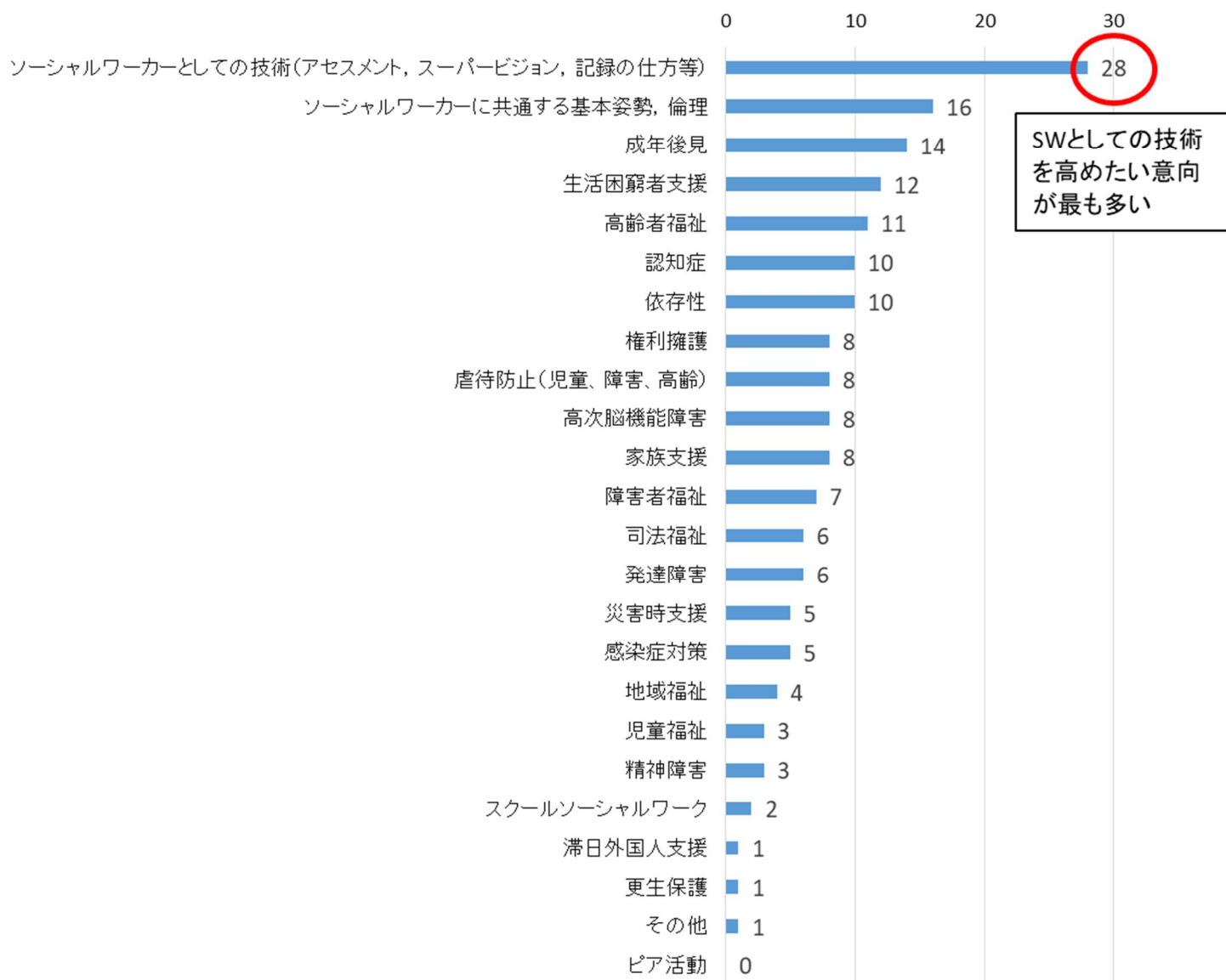
Q2 来年度以降、三団体合同研修会の開催について



* すべての方へ、オンライン研修の受講環境について



Q3 三団体合同研修で取り上げて欲しい内容について



2. ソーシャルワーカーとしての技術 具体的記載

回答なし

その他の記載

- ・ 就労支援

Q4 自由記載

①今後の三団体研修に求めることについてお聞かせください。

- ・ 今後もワーカー同士で交流できる場にして欲しい。
- ・ スーパービジョンなど、絞ったテーマが良い。
- ・ zoom は使えないのですが、講義の部分だけを後から視聴できると助かります。
- ・ 新型コロナに配慮した研修会の実施を開催してもらいたい。

- ・他分野で活躍するソーシャルワーカーの活動や新たな視点に触れることのできる貴重な機会であり、厳しい状況の中ではあるが是非継続していただきたいです。
- ・コロナ禍で研修会の企画自体が難しいと思いますが、様々な形での研修会を企画してほしいです。
- ・ICTについて知りたい。
- ・外部講師を招いての研修。
- ・会員同士の交流が一番です。
- ・色々な立場での意見交換。
- ・会員同士の交流が一番。
- ・会員同士の交流も図れるような会だったらいいなと思います。
- ・外部講師を招いての研修。
- ・顔の見える関係。情報交換。
- ・コロナ禍に起きている問題や事象について、話が聞きたいです。
- ・参加人数の枠、もう少し広げられるとよいです。
- ・三団体間の交流、全体のソーシャルワークの質の向上。
- ・何か開催はしてほしいが、集まるのは避けて頂きたいです。
- ・三団体が集まる機会は早々ないと思うので、お互いに情報交換等ができれば良いと思います。
- ・全国の状況、情報が欲しいです。参考にしたいため。
- ・研修の機会を増やして欲しい。
- ・定期的な研修の開催があれば有り難いです。
- ・感染対策を十分に行った上での開催。
- ・今後福祉は、横断的な取組を一層推進していく必要があると言われていています。国の大きな方向性を共通認識した上で、各団体の機能が発揮できるような研修を望みます。
- ・幅広い分野の学びを得たい。

②新型コロナに関して、ソーシャルワーカーとして取り組んでいる対策やその影響で苦慮していることなどお聞かせください。

- ・面会が制限されているため、家族が患者の状況を把握できず、退院支援がスムーズに進まない。家族が病院来院をためらい、面談を組みづらい。面談時にはマスク、ゴーグルを着用し、換気をしながら行なっている。
- ・LINE のビデオ通話を用いたオンライン面会
- ・マスク、消毒など、距離を保った対応。その人に対して、意識が違う。
- ・面会禁止となり患者家族との信頼関係の構築に苦慮している。
- ・家族が県外の方だと転院出来ない。
- ・取組みとしては、職場に新型コロナを持ち込まない、持ち込ませないことに気をつけている。面談時にアイシールドの装着をする。県外の方との面談時や、大人数で集まり話し合いをするときには、陰圧室やなるべく広めの部屋で行うようにしている。
- ・苦慮していることとしては、入院中の患者さんに家族さんが会えない状態で本人さんや家族さんと相談しながら退院後の生活の調整をすすめていく必要があること。”
- ・面談での感染を予防するため、マスクとアイガードの装着は必須です。来談者にももちろんマスクを求めます。そのため、お互いの表情を読み取りづらかったり、最近は少なくなりましたが威圧感を感じるということもあります。
- ・窓口業務がメインとなっているため、感染対策に気を使います。

- ・三密を回避するよう取り組んでいる。
- ・面会制限のため家族に患者の状態理解をしてもらうことが言葉だけの説明では得にくく苦慮している。動画を利用するなどの工夫をして対応している。
- ・電話対応が増えました。
- ・遠方の家族との面会が叶わず転院調整における支援の関係性構築が難しいことから調整が遅れる。転院時に家族(精神疾患あり)が面会可能な病院にこだわってなかなか転院調整が進まない等。”
- ・ソーシャルワーカーとしての対策には至っておりませんが、標準予防策は徹底しております。特にアルコール消毒は公私問わず携帯するようにしています。新型コロナ対策で受け入れ制限(入所・通所・訪問とも)をするところが多く利用調整に苦慮することもあります。お互いに苦労しているんだなと思いつながりながら対応を進めています。
- ・面会制限のため家族に患者の状態理解をしてもらうことが言葉だけの説明では得にくく苦慮している。動画を利用するなどの工夫をして対応している。
- ・訪問時に感染対策のお願い。施設や病院での面会制限。
- ・患者さんと家族が面会できず、家族さんが本人の状況を掴めないまま、退院調整を進めています。そのため、なるべくイメージしやすいよう、文書にしたり状況報告の頻度を増やしています。
- ・休業や利用制限でサービス調整の頻度が増えたことで業務負担が増えた。
- ・患者や家族との面談に制約があり中々時間調整が大変である。サービス担当者会議が行えない。
- ・面会制限で患者も家族のコミュニケーションが取れない
- ・感染対策として、患者さんやご家族と面談する際にはなるべく距離をとるように心掛けています。
- ・面会制限があり 患者家族があえなくて辛い
- ・家族が患者と面会できない為、本人の状況をイメージしにくい。外出、外泊出来ないため在宅の生活がイメージしにくい。
- ・家族との面談場面が減っていること。
- ・入院中の患者さんであれば家族と面会できず、患者さんが携帯電話を持っていないと会話もできない。両者の意思を代弁し、必要であれば意思をすり合わせ、不安なく退院できるように努めている。
- ・個人個人による感染防止対策の徹底の周知。
- ・面談を電話やメールにして、接触回数を減らしているがそれによって情報が得にくく、信頼関係の構築が難しい。また、本人と面会していないことで、具体的な退院のイメージがわからず退院支援も遅れてしまう。

③その他

- ・三団体の調整いつもお疲れ様です。